

うつのみやじょうしゅとだし ぼしょ
宇都宮城主戸田氏の墓所【英巖寺跡】 H・6



英巖寺は、宝永7年(1710)ごろに戸田忠真が建てた寺ですが、もともと墓はなく、位牌堂がありました。戸田氏(江戸時代中ごろから明治維新までの宇都宮城主)の墓は、江戸牛込の松源寺にありましたが、明治41年(1908)、松源寺の移転のとき、ここ英巖寺に改葬されました。正面に忠恕の墓、左の離れたところに忠友(最後の城主)の墓、左奥に尊次から忠明まで11人の名前が刻まれた大きな墓碑があります。

【昭和46年2月24日 市指定】

うつのみや せい きょうかい せいどう じょう
宇都宮聖ヨハネ教会聖堂 E・4

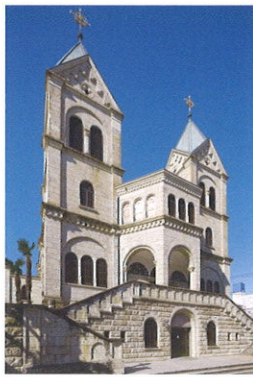


鉄筋コンクリート造りの教会堂で、礼拝堂部の架溝はシザートラスとなっています。聖公会の建物らしく全体に簡素ですが、内部は梁組みがリズムカルな空間を創出しています。外部は大谷石を外壁

全体に用いており、礼拝堂の北東部に柱状の突出部を作っている角形平面の塔屋がアクセントとなっています。内外部の扉や窓部はすべてオリジナルで、当時の雰囲気を見事に現在へ伝えています。

〈日本遺産「大谷石文化」の構成文化財〉[平成24年6月22日 市指定]

まつ みねきょうかい
カトリック松が峰教会 F・6



カトリック松が峰教会は、我が国では数少ない双塔を持ち、ロマネスク様式の装飾を入れている教会です。設計者のマックス・ヒンデルはスイス人で、大正末期から昭和初期まで日本に滞在し、函館市のトラピスティヌ修道院などを設計した人物です。松が峰教会設計に当たっては、故郷であるスイス最大のロマネスク建築であるグロスミュンスター大寺院を思いながら、地元の大谷石を用いたと言われ

ています。昭和20年の宇都宮空襲において、屋根と礼拝堂が被災し焼失しましたが、戦後すぐに復元を果たしました。

〈日本遺産「大谷石文化」の構成文化財〉[平成10年12月11日 国登録]

